

「1次世界大戦前後のスイスの高地、ヌボスにあった結核療養所での患者同士の愛憎劇です。当時、結核は不治の病でした患者自棄で、皆が「運命」をどう受け止めているのか、あるいは受け止められないでいるのか、が描かれています。

ヨーロッパ各地からの患者は皆貴族職業、思想、民族が多様で、さまざまの思いが交錯します。そんな「思い」を知れば知るほど、病気ではない立場の人間は、病人にどう接するべきなのか、せんせんわからなくなります。

本書の意匠での「患者」は「城崎の森」患者中心の「医療」など、可能なのでしょうか？ 医療人も日々苦悩して、います。「散る紅葉、残る紅葉も散る紅葉」なんです。

「Feeling Trouble」は、さまざまなことを考えさせる映画です。

は、第 (金曜掲載)

に重要で、果が高いことが研究結果に反映されているので、ベテランは、今回は、新たに発生する治療から、食道がんについて調べています。食道がんは、胃を再開するほかのガンに比べて再発率があり、また、術後、再発率が多、はるかに高い確率で再発し、治療後2〜3年以内、人がかなり、特に1年以内は要経過観察です。

今回の研究で半年に1回の内視鏡検査でチェックしたように定期的な検査をおこなうかについては、いけません。飲酒や喫煙を強く、逆にしている人は、健康診断の禁煙の効、の胃カメラ検査のときに「食道もよく診てください」と念押しすることを勧めます。

「イベルメクチン」世界の臨床医の証言を読む

集中連載⑨ 問題の本

「病院がイベルメクチン治療を拒否し続けた背景には政府機関や大手製薬会社など巨大な組織の思惑があったのではないかと」

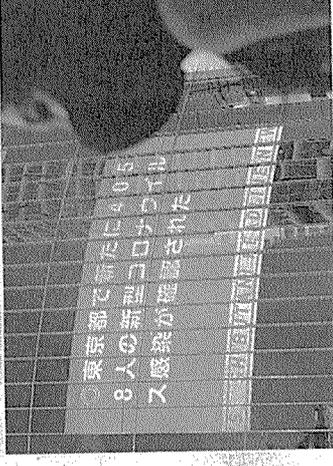
「イベルメクチン」世界の臨床医の証言(南東巻)には、こんな疑惑を発言する医師たちの声が続々と聞かれている。

その理由として、南アフリカの医師はこんな説明をしている。「医薬品業界が新型コロナウイルスに対する抗ウイルス薬を開発している中で、イベルメクチンは彼らの新薬の利益を脅かす存在と見られていた。(略)新型コロナを治療できることが証明されてしまうと、緊急使用許可で承認された実験的な新型コロナワクチンの使用が停止される可能性があった。彼らはそれを恐れ、全力でイベルメクチンを弾圧したのだと思われる」

「緊急使用許可」は有効な治療法が存在しないことが条件だから、あり得ないことではない。それだけならともかく、「世界保健機関(WHO)自身が、イベルメクチンの特異的な効果を無視し、あるいは無関心を貫いた」とインドの医師は言う。

製薬会社の妨害はわからなくはないが、国際機関のWHOがなぜイベルメクチンを否定するか。それについて、この医師はこう説明している。

「ゲイツと大手製薬会社は、学術機関、医療機関、医療雑誌、公衆衛生当局、WHOに対しても巨額の資金提供を行うスポンサーである」



▽奥野修司(おくの・しゅうじ) 「子ッコ」中絶密買の女王で大宅壮一ノンフィクション賞と講談社ノンフィクション賞を受賞。最新刊に「認知症は病気ではない」(文春新書)。

安くて儲からないクスリは日の目を見ないのか

実際、英国の医師は「イベルメクチンについて好意的なことを言う」と大学の主要な資金提供者を怒らせることになる」と警告されたという。また、イベルメクチンが新型コロナウイルスに効果的だという結論に反論する論文を出した大学は、ヒル&マリンタ・ケイツ財団から数百万ポンドの資金提供を受けていたという。

ただ、因果関係はいずれも推測にすぎず、少なくとも本書には、妨害したことを証明する事実は記載されていない。もしこれが証明できれば、WHOがどう飛ぶぐらいの世界的なスキャンダルになるだろう。

イベルメクチンが新型コロナウイルスの特効薬として使われなかった理由は、私が「副作用のない抗がん剤」の誕生(文芸春秋)で紹介したPTTHPの運命ともよく似ている。共通しているのは、どちらも放線菌から誕生し、そして薬価が安いということだ。PTTHPは副作用がほぼゼロという抗がん剤で、末期のがん患者が治る例もあった。だが、製造・販売する製薬会社はなかった。安く儲からないとわかった途端、どの製薬会社も手を引いたのである。今の医薬品はどんなに有効であっても、儲からなければ日の目を見ることはないということである。

新型コロナウイルスによる世界の死者は、公式発表の3倍、1500万人を超える、とBBCは報じている。世界がmRNAワクチンだけで闘ったことが適切だったのか、検証すべきであろう。

ところで本書と興味深いのは、イベルメクチンには抗ウイルス作用だけでなく、がんに対する強力な抗腫瘍作用があることも発見されたことだ。実際、乳がんや胃がん、肝臓がんなどにも使われているという。正式に医療の現場で使われる日が一日も早くやって来ることを願いたい。(わわり)